

公共事業再評価調書

整理番号 H29-8

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

1 事業概要

事業種別	道路改築事業	事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																										
事業名	県道改築事業	地区名等	松代町陸奥赤石(停)線 深谷町	市町村名	鯉ヶ沢町																								
事業方法	<input type="radio"/> 国庫補助 <input checked="" type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分 <input checked="" type="radio"/> 国 65 % <input checked="" type="radio"/> 県 35 % <input type="radio"/> 市町村 % <input type="radio"/> その他 %																												
採択年度	平成 10 年度 (用地着手 平成 14 年度 / 工事着手 平成 15 年度)																												
終了予定年度	平成 33 年度 (平成 29 年 3 月工期変更 (再評価時 平成 30 年度))																												
事業目的	<p>本路線は、西津軽郡鯉ヶ沢町大字松代町の主要地方道弘前岳鯉ヶ沢線との交差点を起点とし、JR五能線陸奥赤石駅に至る延長約17kmの道路である。また、岩木山からミニ白神や赤石溪流、くろくまの滝を經由し白神山に至る重要な観光道路であるとともに、沿線集落と弘前市を結ぶ生活道路でもある。本路線のうち当該工区は、幅員が狭く急勾配・急カーブ区間が連続し交通の隘路となっていることから、これらの解消を図るため整備を行うものである。</p> <p>【計画名称】 青森県の道づくり基本方針 (平成14年度策定) 交流促進と連携強化を支援するあおもりの道づくり 【計画目標】 ①生活・経済圏の連携強化 ②農水産品の都市への円滑な輸送 ③国土保全を担う中山間地域と都市の支援 ④交通拠点へのアクセス性強化 ⑤救急医療体制の支援</p>																												
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再々評価時</th> <th>再評価(3回目)</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>2,760 m</td> <td>2,760 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>5.5(7.0) 基</td> <td>5.5(7.0) 基</td> <td>0 基</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>2,760 km</td> <td>2,760 km</td> <td>0 km</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>19,500 ha</td> <td>19,500 ha</td> <td>0 ha</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>1 基</td> <td>1 基</td> <td>0 基</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	再々評価時	再評価(3回目)	増 減	計画延長	2,760 m	2,760 m	0 m	計画幅員	5.5(7.0) 基	5.5(7.0) 基	0 基	改良工	2,760 km	2,760 km	0 km	舗装工	19,500 ha	19,500 ha	0 ha	橋梁工	1 基	1 基	0 基	
	区 分	再々評価時	再評価(3回目)	増 減																									
計画延長	2,760 m	2,760 m	0 m																										
計画幅員	5.5(7.0) 基	5.5(7.0) 基	0 基																										
改良工	2,760 km	2,760 km	0 km																										
舗装工	19,500 ha	19,500 ha	0 ha																										
橋梁工	1 基	1 基	0 基																										
事業計画については、当初計画時と比較して変更はない。																													
事業費	<input type="radio"/> 再々評価時総事業費 900 百万円 (単位：百万円)																												
		~26年度	27年度	28年度	29年度	小 計	30年度~	合 計																					
	計 画 (うち用地費) (年 月変更)	()	()	()	()	① 750 ② (266)	150 (53)	900 (319)																					
実 績 (うち用地費)	226 (39)	59 (3)	36 (1)	50 (1)	③ 371 ④ (44)	529 (263)	⑤ 900 ⑥ (307)																						

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗		年次計画に対する進捗	
	(うち用地費)		41.2 %	[③/⑤]	49.5 %	[③/①]
			(14.3 %)	[④/⑥]	(16.5 %)	[④/②]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 (680百万円)	50.1 %		60.2 %	
	舗装工 (100百万円)	30.0 %		36.0 %		
	橋梁工 (120百万円)	0.0 %		0.0 %		
説 明	平成24年度の再評価時に計画変更を行っているが、引き続き公共事業費削減傾向の中で他優先工区への重点配分が続いており、当該工区への事業費配分は制約される状況が続いている。					
問題点・ 解決見込み	現道拡幅部分における用地難航箇所 (共有地) については、地元鯉ヶ沢町の協力のもと解決見込みであり、事業の円滑な遂行が図られている。					
事業効果 発現状況	現道拡幅部分については、工事終了後速やかに交通解放し、整備効果の早期発現に努めている。					

(2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 平成27年9月に閣議決定された「第4次社会資本整備重点計画」では、将来にわたって安全・安心で豊かな国民生活と活力ある社会経済活動を可能とするために、選択と集中の方針の下、道路の持つストック効果を最大限に発揮させるよう整備を進めるとともに、地域の災害等のリスクを低減させるための道路整備を推進することが必要とされている。	【県内の評価】 自動車交通への依存度が高い本県にとって、道路整備に対する根強い要望がある。 東日本大震災(H23.3.11)を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能(緊急物資輸送や避難路等)確保の重要性が再認識されている。
	当地区における評価	観光道路、生活道路の両機能を確保しなければならない本路線の現状の改善が求められている。	
必要性	鱒ヶ沢町の主要観光地であるミニ白神や種里城址・赤石溪流、くろくまの滝へのアクセス向上を図るとともに、岩木山から白神山に至る津軽西部の主要観光地をつなぐルートの一部を構成する重要な観光道路でありながら、現状は1車線道路であるため観光バスがすれ違えないことから、観光道路としての機能確保のためにも現状改善の必要性がある。ただし、県代行整備区間(町道時、S52~H2、L=1,975m)を含む深谷地区~黒森地区までの延長約3.9km区間については、当該計画から分離した形で別検討を継続していく。		(a)・b
適時性	本路線は山子集落→深谷集落→細ヶ平集落→黒森集落間を連絡する唯一のライフラインとなっている。観光道路、生活道路の両機能を確保しなければならないが、本路線の現状は1車線道路であるため、現状改善の必要性がある		(a)・b
地元の推進体制等	地元鱒ヶ沢町から早期の現状改善が求められている。		(a)・b
効率性	2車線確保により、沿線住民の利便性向上や観光ルートの確保が図られる。		

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A)・B・C

区分	主な項目	再々評価時	再評価3回目	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	746 百万円	789 百万円	43 百万円
	(2) 維持修繕費	140 百万円	158 百万円	18 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	886 百万円	947 百万円	61 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	750 百万円	849 百万円	99 百万円
	(2) 走行費用減少便益	44 百万円	52 百万円	8 百万円
	(3) 交通事故減少便益	0 百万円	0 百万円	0 百万円
	(4) 冬期便益	177 百万円	193 百万円	16 百万円
	(5) 防災便益	241 百万円	241 百万円	0 百万円
	総便益	1,212 百万円	1,335 百万円	123 百万円
	地域修正係数(φ)	1.507	1.507	
	修正総便益(B')	1,826 百万円	2,012 百万円	185 百万円
費用便益比	費用便益比(B'/C)	1.37	1.41	
	修正費用便益比(B'/C)	2.06	2.12	
費用対効果分析 (B/C)	【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) 費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省道路局、都市・地域整備局) 道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成22年3月 県土整備部道路課)			(a)・b
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 前回評価時からほぼ変化はない。			(a)・b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A)・B・C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 路盤材、舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。 伐根材のチップ化による法面保護により、経費の縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 再々評価時において整備区間を大きく見直すことにより約17億円のコスト縮減が図られ、地元の理解を得ることも出来ていることから、現計画を最適案とした地元との共通認識のもとに事業を進めている。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A)・B・C
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 鱒ヶ沢町から早期整備が要望されている。 【住民ニーズ・意見】 当該区間は、現道の車道幅員が狭小のため車両のすれ違いに支障をきたしており、生活道路及び観光支援道路として位置づけられている現状の改善が求められている。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ○ 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ● 水系や水辺の改変 ○ 海域の改変 ● 建設機械の稼働 ● 土砂等の搬出・搬入 ● 廃棄物処理等 ● 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ● 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ○ 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・低騒音並びに低排出ガス等自然環境へ配慮した建設機械の使用に努めている。 ・沿道の自然景観資源に配慮し、張り芝等により緑化に努めている。 ・産業廃棄物は再資源化施設へ搬入し、リサイクルに努めている。	a. b
地域の立地特性	(地域指定) 過疎地域、振興山村地域、特定農山村地域、農業振興地域、特別豪雪地帯 (災害の記録) なし (危険箇所情報) なし	

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	・全ての項目が「A」評価であることや、幅員狭小のため車両のすれ違いに支障をきたしており、生活道路及び観光支援道路として位置づけられている当該路線の現状改善について地元より求められていることから対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	○ 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	○ 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)